



2024 年度第 4 回理事会

議 事 録

公益社団法人 日本クレー射撃協会

2024 年度 第 4 回理事会

議 事 録

1. 日 時 2024 年 8 月 27 日 (火) 13 時 00 分～
2. 場 所 JAPAN・SPORT・OLYMPIC・SQUARE 3 階 会議室 8

3. 出席者 出席理 16 名、出席監事 2 名
- | | | | |
|------|-------|-------|----------|
| 会 長 | 不老 安正 | (福 岡) | |
| 副会長 | 中園 功一 | (鹿児島) | 審査委員長 |
| 専務理事 | 増田 正起 | (静 岡) | 総務委員長 |
| 常務理事 | 清水 光一 | (本 部) | 強化委員長 |
| " | 大内 智喜 | (長 野) | 競技担当理事 |
| 理 事 | 大山 重隆 | (埼 玉) | アスリート委員長 |
| " | 相馬 正 | (青 森) | |
| " | 原田 光男 | (栃 木) | WEB |
| " | 瀧根 隆幸 | (富 山) | |
| " | 古川 竜則 | (京 都) | |
| " | 長谷川雅彦 | (山 口) | |
| " | 堺 良雄 | (福 岡) | WEB |
| " | 小川 晶子 | (一) | |
| " | 池内 数哉 | (大 阪) | |
| " | 布野 兼一 | (長 野) | |
| " | 松島 愛 | (一) | WEB |
| 監 事 | 萩野谷豊光 | (茨 城) | |
| " | 坂本 昭一 | (佐 賀) | WEB |

(欠席理事) 夏樹陽子副会長、丸石博副会長、小高左起子理事、ヒロミ理事

4. 陪 席 多久和寿稔 (競技委員長)
坂本 強 (事務局長補佐)
大江 直之 (事務局長補佐)

5. 理事会定足数確認

理事 20 名のうち 16 名が出席。欠席理事は 4 名。監事は 2 名とも出席。

6. 議事録署名人確認及び開会挨拶

事務局より説明。

定款第 42 条に基づき不老会長が本理事会の議長を務める旨説明。

また、定款第 47 条に基づき、本理事会の議事録は、議長及び出席監事が署名することになる。

議長より挨拶。

テレビ等々で報道の通り、私の地元大宰府では 39 日間、35℃以上の猛暑が続いている。本当に暑い。歩くだけで汗が出るような状況だ。現在、台風 10 号が来ているので、私と中園副会長は WEB 参加を考えていたが、今回の台風がとてものろいため、上京することができた。

この度のパリ五輪では日本選手団が奮闘し、金メダルが 20、総メダル 45 個獲得と好成績を修めた。理事会前に、私と増田専務理事、大江事務局長補佐の 3 人で JOC 幹部と面談し、次回ロス五輪では必ずやクレ射撃は参加すると言い切ってきたため、これを実現させなければならないと自分にプレッシャーを掛けた。新たな気持ちで前進したい。

いよいよ来月は、国内最大のイベント、国民スポーツ大会が予定されている。国民体育大会から国民スポーツ大会へ名称が変わり、第 1 回目大会が佐賀で行われる。クレ射撃競技は 9 月 25 日に開始式、9 月 29 日が最終日、合計 5 日間の大会となる。2-2-1 方式の全県参加で初めての大会でもあり、佐賀で選手各位の素晴らしい競技を観戦したいと思う。

7. 事務連絡

事務局より説明。

本日の第 4 回理事会招集通知において、出欠予定をメール又は FAX で知らせしてほしいとお知らせしているが、一部の特定事務局職員に、「出席するから駐車場を予約してくれと個別に電話で依頼し、集計担当に報告が無かったことがあった。電話を取った職員が出張等で職員間の連絡不十分があり、出欠切日になっても意向が分からない方が複数名あり、準備に支障が出た。本部事務局では出席回答した記録を残す必要があるため、出席・欠席については、電話ではなくて、面倒でもメールか FAX にて記入いただいたものを、本部事務局へお送りいただくよう、理解と協力をお願いしたい。

また、職員 of 唐澤氏・永島氏の退職にあたり、本部事務局の業務が溜まり苦労していたが、この度、7 月 1 日から上久保氏が新たに採用となったので、理事・監事各位へ紹介したい。

上久保氏は神奈川大学を卒業、在学時に学生連盟へ所属し、学連では事務局を担当していた。人柄も良く優秀と思っていたところ、大学卒業後、高知県行政へ就職したが、新たな仕事を経験したい意向があり、是非協会で頑張ってくれと有難いと薦め、本人の承諾を経て 7 月 1 日から入社となった。

上久保職員より挨拶。

7 月 1 日よりお世話になっている上久保と申します。宜しくお願い致します。

8. 報告事項

(1) 競技委員会関係について

事務局より説明。

競技委員会のメンバーについて、現在競技担当理事は大内智喜理事、競技委

員長は多久和寿稔委員長が就任することを理事会で承認されているが、新たに副委員長として加藤仁史（三重）、秋山哲也（栃木）を加え、年齢的に若い2人が多久和競技委員長を支えていく構成としたい。また、委員としては、坂井則寿氏（北海道）、荻野克利氏（埼玉）、本部事務局坂本の3名を補充したい。あと1～2名を委員として追加補充したいが、当面はこのメンバーで競技委員会の充実を図り、効率よく大会が運営できるようにしたい。

配布資料に添って次の大会報告。

- 1 ブロック本部公式大会②中国・四国・九州：岡山県クレ射撃場
- 2 ブロック本部公式大会③北海道・東北：宮城県クレ射撃場
- 3 ブロック本部公式大会④東海・北信越・近畿：長野県営総合射撃場
- 4 JOC ジュニアオリンピックカップ大会：神奈川大井射撃場

今年度の全日本選手権大会におけるQPについて、競技委員会から提案したい。来週末の9月7～8日、成田射撃場で全日本女子選手権大会・全日本シニア選手権大会が実施される。普及・振興の観点から、両大会のトラップ・スキート上位1名へQPを付与したい。既に他大会でQPを獲得している場合はその権利は繰り下がる。理事会の了承をいただければ有難い。

議長が議場に諮り、全日本女子・シニア選手権大会各種目上位1名にQPを付与されることが承認された。

事務局より説明。

来年度の本部公式大会の日程案については、毎年9月又は10月の国体時に競技委員会・審査委員会で協議するが、今回は少し早めに提案をさせていただきたいと考えている。配布資料の通り、来年度は7月20～21日、翌年の青森国体を控えたプレ大会を実施予定としている。但し、トラップ・スキート各1面なので実施体制を現在調整中である。全日本選手権大会は10月18～19日で予定しているが会場はまだ確定していない。ブロック大会・本部公式大会は配布資料の日程で予定しているが、ジュニアオリンピックカップ、シニア・女子選手権、来年は国スポ大会がないので、通年であるフェスティバル開催となるが、フェスティバルの協議が地元とまだできてないので、本日の資料には掲載していない。

また、強化委員会は強化選手の海外派遣を計画している。7月のイタリア・ロナト大会、8月のカザフスタン・アジアチャンピオンシップ、この2大会へ強化選手を派遣したいということで、来年は本部公式を強化指定選手等の選考会に充てたいという清水強化委員長や中山ヘッドコーチの要望があるので、日程が重ならないよう配慮した。

本部公式大会は面数が多く、射撃場が積極的に協力してくれる会場を選びたい。現在の候補としては、ニッコー栃木、成田、岡山、熊本を想定している。来年度のブロック大会については、ブロックや地方協会、射撃場の連名で立候補いただき、積極的にやってくれるところを選びたいと競技・総務委員会では考えている。面数については、トラップ・スキート各2面があった方が

良いが、今まで候補に上がっていなかったトラップ2面・スキート1面の射撃場も、内容によっては実施を検討させていただきたい。開催にあたり、当該ブロックは積極的に協力させていただきたいので、総務担当者をブロックで置いてもらう、レフェリーの半分は地元ブロック・県協会だけで揃えてもらう。会場の設営・撤収もブロックで積極的にやってもらう。ブロック・地方協会内で争いが無い。

やる気があるブロック・地方協会は是非立候補させていただきたいので、案内通知を近々発送する予定。内容を確認し、11月頃にはどこで実施するか決定したい。

議長より補足説明。

立候補制度にした場合、希望が重複することがあるだろう。その際の決定方法について、トラブルを避けるため競技委員会で決めておいてほしい。

議長が確認し、報告事項が了承された。

(2) 強化委員会関係について

事務局より配布資料に添って説明。

4月1日から新たにスタートした強化委員会では、今年度の派遣事業としてカザフスタンで行われるアジアショットガンカップ大会を予定している。行程・試合進行は配布資料の通り、選手団としては中山ヘッドコーチ、中村総務、トラップ選手2名、スキート選手4、合計8名の選手団で臨む予定。次に、7月から月1回のペースでトラップ・スキート全体の強化合宿を行っている。7月福岡、8月成田で実施した強化合宿の報告書を各位へ配布させていただいた。中山ヘッドコーチより毎回丁寧な報告書をいただいているので、詳細は配布資料をご覧いただきたい。

清水強化委員長より補足説明。

中山ヘッドコーチ主導で福岡、成田の強化合宿を実施し、2回とも私も帯同した。所感としては、以前の強化合宿は射撃一辺倒。撃ちまくる強化であったが、現在はがらりとカリキュラムを変更し、座学やコミュニケーションに時間を割いている。中山ヘッドコーチがしっかりしたカリキュラムを策定・実施することにより、選手の個性を把握したり、座学において選手自身に考えさせて、選手側が自分の考えを導き出すプログラムを組むことにより新たな発見があり、その発見を強化プログラムの中で効果が出るように持っていくことをきちんと考えた上で、プログラムが練られている点进行评估している。また、座学の手話講座においては、宮坂選手へ講師を務めてもらった。今まで十分なコミュニケーションが取れない状況下であったが、手話講座をやることによって、別人のように表情が変わり、物事に対して宮坂選手自身が積極的になったと共に、チームの協調性、他選手からも彼女に対してコミュニケーションを積極的に取るようになった。チームの輪が形成され、雰囲気も良くなった。手話講座は、今後継続して実施していくことをヘッドコーチから伺っている。その他、英会話講座も実施した。国際大会において選手がレフェリーへ何かをアピールをしたい時に、今までは、唐澤氏や私を介してレフ

エリーとコミュニケーションを取っていたが、帯同役員が少ないため、同時に複数の射面で日本選手が競技していると、どうしても目が届かない部分があった。これについてヘッドコーチがリスクを感じ、やはり選手が不安な気持ちで試合に臨むことは良くないので、例えば装弾のこと、当たった・外れたなど、レフェリーやジュリーに対する簡単なコミュニケーションレベルを上げるために簡易な英会話講座を実施した。これはとても有意義であり、これについても今後継続的に実施していく予定である。

次に、福岡合宿の際に使用したスポーツ施設：アクシオン福岡、複合スポーツ施設で、九州内の様々な競技団体 PF がこの施設を使って各種強化プログラムを行ったり、数値測定を実施している。合宿に参加した強化選手の体力的数値もいろいろ計測させてもらったところ、意外な結果が出た。

アクシオン福岡を利用されてる他の競技団体選手、具体的に言えば、ライフル、アーチェリー、バスケット、サッカー、テニス。様々な競技選手の数値を下にした反射神経、動体視力、握力の他、基礎体力の平均値がそれぞれある。今回計測したクレ射撃の強化選手は、この施設の基準平均値よりも、全てにおいて劣っていた。これから世界へ進出する上で、アクシオン福岡で計測した数値を持って東京・赤羽にある国立科学スポーツセンター（JISS）と共有し、今後の選手強化において何かヒントが出ないか、相談に行く予定である。専門家の意見を求めながら、より効果が出る強化活動に反映していきたいと考えている。

次に成田合宿だが、カザフスタン派遣前の最後の強化合宿となる。選手のコンディションは非常に良いので、結果に期待している。暑熱対策として、名古屋アジア大会についても暑熱対策・問題は出てくるが、夏場の競技においてどのような暑熱対策を行うか、重要な点と考えている。

事務局より補足説明。

各位へ共有いただきたい点がある。当協会の強化拠点である伊勢原射撃場が3月末でスポーツ庁へ辞退・返上されたことは承知されていると思う。

清水委員長と私が窓口になり、後任の強化拠点の指定を巡り、JOC やスポーツ庁と様々な折衝や打合せを続けているところである。

現在、当協会が指定した強化選手が全部で9人居るが、うち2人が伊勢原射撃場を自主トレーニング会場として利用している。自主トレーニングしている選手が、普段どのような練習環境で、どのようなトレーニングを行っているのかという実態把握、強化委員会や協会に対して何か要望や意見があればということで、山下コーチやヘッドコーチ中山さんが、巡回で各選手と面談している。その中で、中山コーチが伊勢原へ訪問した際、前会長が人を通じて、「中山コーチは出入り禁止だ」と伝えてきた。中山コーチのみならず、現在ハイパフォーマンスディレクターを務めている清水氏も「来るな」という話があったり、私自身も伊勢原射撃場にある当協会の備品引き上げのために射撃場を訪問したら顔を見るなり出ていけと怒鳴られる始末だ。

神奈川県公共施設である伊勢原射撃場で「出入り禁止」などあり得るのか、JOC へ現状を相談した。JOC より、施設管理者を指定している神奈川県行政に相談するようアドバイスをいただき、8月半ばに私と清水委員長で、神奈川

県スポーツ課長と面談して、赤裸々な現場の状況を説明した。課長からは、合理的な理由がない限りは出入り禁止などあってはならないことだ、早急に確認するという回答であった。

私どもとの面談後1週間を待たず、神奈川県スポーツ課長が伊勢原射撃場と連絡を取り、私共から説明した行為があったか、あったとすればその行為に十分な合理的理由があるか、聞き取り調査を行った結果、合理的理由はなく大変申し訳なかった、二度とこのようなことは無いと思う。簡略で申し訳ないが、調べた結果を報告申し上げるので、協会内で共有してほしいという説明を伺い、本日の理事会前、不老会長と一緒にJOC加盟団体審査委員長と面談。その際に、前NTCである伊勢原射撃場で、このような経緯があったということの説明し、内容は全てJOCとも共有している。

一方で、困った問題が発生している。

伊勢原射撃場が強化拠点として指定されている間、毎年度、スポーツ庁と伊勢原射撃場間で契約書が交わされ年間1,200~1,500万円の補助金が支給されていた。これは当該年度の事業計画に基づいて執行される。こういった備品を購入する、この業務を賄うためにこういう人を雇うといったものだ。事業計画で予定したものを年間通じて執行し、年度末に報告書を作成・提出する。国の税金を使用しているので、スポーツ庁としては、その経費執行にあたり会計検査院の監査を通す必要がある。報告内容・清算内容に疑義がないか、報告書提出時の監査以外に数年後もう1回監査している。これは「額確定作業」と呼ばれているが、令和4年度の額確定作業が現在ストップしている。この令和4年度額確定作業が終わらないと、強化拠点の後任指定の件は保留にするとスポーツ庁から説明があり、現在、清水委員長と私、不老会長、増田専務理事と共有している。

今後何か進捗があれば適宜理事会へ報告させていただく。

議長が確認し、報告事項が了承された。

(3) 総務委員会関係について

事務局より説明。

兵庫県所属の大前選手が退会されたことは新任の方を除いてご存知と思う。兵庫県協会は過去、兵庫県スポーツ協会から配付される助成金の支出について不正があった旨新聞報道された。

これは前会長新井氏時代の話だ。選手強化費として装弾代等が補助されるにあたり水増し領収書を提出していた。これを当時追及していたのが現会長の難波氏だ。当時の不正について兵庫県スポーツ協会から返還命令がきて、それを兵庫県協会が支払ったと伺っているが、新井氏個人と兵庫県協会間で民事訴訟中と聞いている。大前選手はこの不正受給に関わっていた疑義があり、大前選手が追及されるようになった。大前選手本人は当時はそういう認識を持っていなかったが、結果的にそのようになったのであれば申し訳なかったということで、7月23日付けで兵庫県協会に退会届を提出され、お金も一部返し、謝罪も行ったと伺っている。

兵庫県協会では、8月3日の理事会で大前選手の3年間の資格停止を決めた

という通知が各都道府県協会へ送付されていると報告を受けた。
コンプライアンス室、総務委員会、事務局としても、難波会長から具体的な取組みを求める要望、或は大前選手から具体的な取組みを求める要望は出ていない。アスリート委員会アドバイザーが、日常的に大前選手のいろいろな相談に応じてきた経緯があるが、大前選手は基本的には謝罪して、退会して、返金したという姿勢を兵庫県協会に示したところであるため、大前選手の意思を尊重し、今暫らくは静観したいと考えている。
当該ブロック理事古川氏からも、何かブロック理事としてやるべきことがあれば教えてほしいと申し出があったが、今現在は本人が退会されたばかりでもあるので、本部としては暫らくは静観したいと考えている旨を説明させていただいた。また、3年間という資格停止期間が少し長過ぎる感もあるので、期間の短縮等いわゆる復帰にあたり何か本部としてできることがあればその時に全力で取り組みたいと考えている。

議長より質問。

大前選手は謝罪と返金をした。返金したということは罪を認めたということか。

事務局より説明。

返金したと伺ったが、難波さんからは返してもらってないと主張。どちらが本当か実態把握ができていない。情報収集も正確なものが必要であり、時間をかけて対応したい。

古川理事より意見。

資格停止3年間では次のロス五輪に間に合わなくなってしまう。以前、県協会から資格停止処分された選手が本部預かり会員として復帰できたという経緯があったと聞いているが、大前選手について本部預かりで現役続行という措置は取れないものか。

増田専務理事より説明。

大前選手は7月23日付けで退会しており、退会した後の処分については本部は関与できない。本人の意思で退会しており、また、資格停止3年間という処分を兵庫県協会が会則に基づいて行っているのであれば、本部としては地方自治を尊重する立場もある。

7月23日付け退会届を提出した会員を本部預かりとすることもできない。本部預かりは、アスリート・ファーストの観点で、何らかのコンプライアンス違反によって選手の会員登録が拒否された会員を保護する制度であり、補助金の不正受給に該当する選手について本部預かり制度がそのように流用されることは進められない。選手の将来を考えて発言されている方々の気持ちは察するところもあるが、退会された会員の本部預かりは、結論的に言うと無い。

議長が確認し、報告事項が了承された。

(4) アスリート委員会関係について

大山アスリート委員長より説明。

前回の理事会後、いろいろな方に声を掛けてアスリート委員会メンバーを確定した。昨年度のランキング上位者から確認をしていき、小島千恵美氏（群馬）、若手で石橋遼氏（学連）、大高紗来氏（学連）を追加し、20歳代の意見を取り入れようと考えている。また、アドバイザーとして、前アスリート委員長の谷本歩実氏。谷本氏は現在、JOCアスリート委員会へ携わっているため、当協会のアスリート委員会へ助言いただければ有難いと考えている。その他事務局サポートとして坂本氏をお願いしている。オブザーバーは、昨年度に引き続き4名を置こうと考え、メンバーに加えた。

目的は配布資料の通り、年間活動計画に添って普及活動が一番のメイン。若い方や様々な方にクレ射撃を知ってもらって銃砲を所持してもらうことだ。先週8月24日、埼玉県朝霞市体育館でシミュレーター体験会を実施した。100名ぐらいの方々にクレ射撃を体験していただき、関心・興味を持ってくれた方が多数居たことを報告させていただく。

また、『ザ・シューターズ』を活用した情報発信。選手に役立つ情報、アンケート調査、定期的なオンライン・ミーティングを行いたい。本部競技委員さんより会員選手状況の把握をこれから行いたい。選手からの意見だけではなく、レフェリー等本部公式大会へ携わっている競技役員方々の声も聞いて、お互いの意見を取得したいと考えている。その他、アスリート委員会問合せ窓口を設置、インターネットを通じて様々な意見を取得したい。協会を良くするためのアイデア、取り巻く環境改善の提案、前向きな意見等をお願いしたいと思っている。運用は、Googleフォーム、インターネット上で記入いただく。会員番号、氏名、所属、メールアドレスを必須とする。匿名では受け付けない。個人情報保護のため、閲覧はアスリート委員会内の限られたメンバーのみ行う。情報漏洩には留意したい。内容によってはコンプライアンス違反、セクハラ・パワハラ等あれば、アスリート委員会の管轄外になってしまうので、総務へ対応をお願いしたい。運用開始は9月1日を予定している。

議長が確認し、報告事項が了承された。

(5) 名古屋アジア大会について

清水理事より説明。

2026年開催予定の名古屋アジア競技大会について現状報告する。

昨日、結構大きな転機があった。昨日の組織委員会定例会議で、予算がとにかく無い。愛知県総合射撃場のクレ射撃競技に関する予算はもう出せないという説明があった。

現在、組織委員会との対応は、私とスポーツ・コーディネーターに就かれた大内智喜理事が務めているが、例として、愛知県総合射撃場へ行かれた方はご存知と思うが、トラップの射撃背景を統一する。現状、ところどころ山肌が露出し、木は枯れて、背景が全く統一されていない。発射方向に向かって

一番右の射面の右側は、今、特定な時間帯はクレーが視界から消えるような事象が見られる。選手から標的が全く見えないため、背景を統一しないと競技に支障が出る。

その他、鹿が頻発して出没する。現在、鹿が出てきた時は射場の一般利用の場合、射撃を中断して、笛で鹿を追い払って練習を再開している。このような状況下で国際大会を実施する訳にはいかず、改善が必要であるところ、昨日の定例会議で、対策を施す予算はもう無いという説明だった。何の対策もやらないまま大会を実施すれば、当然、選手からクレームが出るし、ASC（アジア射撃連合）からも許可されない恐れがあるところ、予算が無いと言い切られてしまった。

組織委員会と我々で協議をしてもこれ以上の前進は見込めないので、来る2024年12月、ASCが会場視察のため来日する予定があるので、組織委員会からこれ以上予算が出ないということ状況を踏まえて、ASCから指導いただき、事の進展を図るしかない現状だ。

現在確定している重要な点としては、2026年の9月中旬からアジア大会が実施されるが、修復工事後、射撃場が完成する予定は許認可を含めて2026年7月末日となるブロックプランを策定し組織委員会は動いている。即ち、7月末に会場が仕上がった後、本大会を9月中旬にやることになる。東京五輪時でさえ、5月GW明けにテストイベントを行い、約3ヶ月後の8月本大会を迎えた。名古屋アジア大会は2ヶ月も無い状況なので、その短いスパンで様々なテストを行い、エラーが出たら8月内で解決してしまわないと間に合わない、いわばぶっつけ本番的な状況が想定される状況だ。

その他の懸念材料としては、配布資料組織図の通り、組織委員会からのアドミニストレーションスーパーバイザー、IF・AFサービススーパーバイザー、アスリートサービススーパーバイザー等の各8名のスーパーバイザーをNFから選出いただきたい旨を依頼されている。

スーパーバイザーの具体的業務は、時間の関係上本日は説明を割愛するが、クレー射撃競技の知見に長けており、尚且つ競技ルールを熟知されている競技役員20名拠出してほしいと組織委員会に依頼されている。この20名を当協会から出す、ライフル協会からも出す、これを前提として名古屋アジア競技大会が開催できるという段取りになっている。しかしながら予算が無いものをどのようにカバーするか、非常に難しくなると感じている。特に競技委員会で、レフェリーであったり、ジュリーであったり、競技会場内で実際に競技のサポートをしていただく役員を想定しておかなければならない。本部公式大会が実施される合間を縫って諸々準備を進めていかなければならなくなるため、早い段階から連携を取っていく必要がある。

正直、直近の東京五輪と比較すると、今のタイミングにおける準備状況を東京五輪が100であるとしたら、名古屋アジアは30程度の準備しかできていない。先程説明した8名のスーパーバイザー、東京五輪では60人規模で行う業務量だ。今、実際稼働してるのは、ライフルはもう既に人選が終わり20数名準備できてる状況。それに対して、我々クレーは協会として提供しているのは私と大内氏の2名だ。何もかも組織委員会の要望に従う必要はないが、少

なくともどうやって準備していくか、議論をそろそろ始めていかないと間に合わなくなる。東京五輪時よりもアジア大会は参加選手数が多い。尚且つ、東京五輪はイチから仮設会場を造ったが、アジア大会は今ある既存施設、東京五輪と比較しても会場自体すごくプアな状況なので、現状で国際大会ができる感触を、私は持っていない。逆に、組織委員会へきちんと、今の計画では駄目だと言い続けながら、何とかしていかなければならない。まだ2年と考えるのか、あと2年しかないと考えるのか。私の中では4年あっても足りないかなという肌感なので、理事・監事へ共有させていただきたい。

長谷川理事より質問。

組織委員会からは予算がもう出せないという説明らしいが、それよりも競技が安全に運営できるかということが第一優先であるべきだ。アジア大会はパラ競技もあるので、そういった面を現状の愛知県総合撃場を想定すると、なかなか難しい部分があると思われる。予算がもうこれ以上出せないということよりも国際大会を安全に運営できるか、という点を愛知県はどう思っているのか。

議長より質問。

その前に、ASCへ当協会から書簡を送って、現在の状況について組織委員会へ進言してくれと依頼している。それはどうなったのか。

清水理事より説明。

昨日の時点で、予算が無いと言い切られてしまったので、要するに組織委員会から白旗を挙げられてしまっているの、イコール開催できないということまでにはならないが、私の所感からするともうできないと思っている。できないでは困るので、どういった手段が考えられるか。我々は競技を専門に行っている専門家だ。行政関係者は射撃をやったこともない、火取法も分からない、銃刀法も分からない。そもそも土俵が違うので、長谷川理事から質問あったようなリスクを取りまとめた上でASCへ書簡を出して、ASCからダメ出しの指導をいただくしかない。そもそもアジア大会の誘致募集について、愛知県が手を挙げたので、我々NFは誘致した愛知県に協力をさせていただくスタンスで臨んでいる。

長谷川理事からの質問に答えさせていただくと、私が一番のリスクだと考えているのは、バックストップの背景が統一されていないこともあるが、先ほど強化委員会報告で出た「暑熱対策」だ。今日は8月末だが、今から2週間後に愛知県でアジア大会を予定している訳で、最近の台風の話であったり、気温の話であったり、想定できないようなリスクが潜んでいるにも関わらず、これ以上お金が出せませんと言われてしまうと、血が出たけど絆創膏を貼るお金もないと同意だ。

私が、もしかすると開催できないかも知れないと説明したのは、NFがお手伝いをします、リスクがあると説明してます。だけど、それでも強行的にアジア大会を開催した場合、NFが容認したと誤解を生む可能性もある。NFの責任がゼロではないならそこはリスクを取り除いておく必要がある。

まずは ASC からしっかり指導いただき、ダメなものはダメと組織委員会へ申し入れてもらう。それでも組織委員会が改善しない場合は、違う切り口で話を進めていく必要がある。

議長より説明。

NF は関係ないだろう、アジア大会は名古屋が誘致・立候補したのだから。我々は競技団体として、あくまでも大会運営のサポート役だ。ところが施設上問題がある。施設を ASC が認めるレベルに上げていかなければならない。仮にそういう状況で ASC が視察に来られて、これでは開催できない。組織委員会は金を出せない。これではもう中止しかない。知事訪問を含めて強い姿勢で臨まないといけない。政治力しかない。

事務局より補足説明。

本日の理事会へ名古屋アジア大会の報告事項を入れさせてもらった背景は、いろいろな理由があり物凄く切羽詰まった状況であることを、事務局と担当している理事だけではなく、理事・監事全員へ共有する必要があると考えたからだ。

名古屋アジア大会は、清水理事の説明通りあと 2 年しかない。簡単に言うと、人も居ない、金も無い、モノも無い、時間も無い。東京五輪と比較すれば 2 年前時点で東京五輪を 100 とすれば名古屋アジアは 30 しか準備が進んでいない。東京五輪は朝霞の仮設射撃場で実施したが、朝霞射撃場へ従事した組織委員会の射撃担当者は 60 人居た。ところがアジア大会組織委員会担当者は全競技で 11 人しか居ない。どれだけ異常か判っていただけたらと思う。土木を入れた施設改修をしなければならないのに数千万円しか予算がないとか。その数千万円が大会運営費も含めた予算だと聞いて、驚きを通り越して呆れている。組織委員会関係者はアジア大会さえ終われば、後は関係ない。ところが我々は ASC 加盟団体だからアジア大会が終わった後、5 年・10 年・20 年後も関係は続く。名古屋アジア大会は酷かったなとレッテルを貼られる。そうすると、過去の広島アジア大会、千葉ワールドカップ、熊本ワールドカップ、東京五輪、日本はさすが運営が上手いと先人たちが苦勞して造り上げたイメージが、全部崩れることになる。

12 月に ASC 関係者が視察のために来日するので、正直に盛らずに、オブラートにも包まずに現状を見てもらい、ASC へこんな状況下でも実施するのか判定いただく。これが NF としては順当な立場だと考えている。予算が無いならこうしようと ASC が指導してくれるのであれば、ASC が責任をもって OCA (Olympic Council of Asia) : アジア大会主催者へ報告してくれるだろう。ASC へ一旦、下駄を預けるやり方で臨みたいというのが清水理事の考えだ。12 月まで時間があるから、幸いにも日本ライフル射撃協会松丸会長が ASC 副会長なので、松丸会長を通じて赤裸々な情報を全部 ASC に上げて、12 月の VISIT の際に判断いただく。展開次第では名古屋でやるか・やらないかまでであると思われる。そういった切羽詰まった状況であるということ、理事・監事方々に共有いただきたい。

議長が確認し、報告事項が了承された。

(6) その他：普及・振興策について

事務局より説明。

古川理事からリクエストがあり、直近 2023 年度協会会員の年齢層（男女別）を知りたいということで、それを示した資料を配布させてもらった。たまたま 2016 年版の同じデータがあったので、7 年経過してどう変化したのか比較してみた。女子会員は各位の協力があり、競技層が少し厚くなったことをご理解いただけたと思うが、競技の将来性を鑑みれば若年層へのアプローチが必要であることも理解いただけたと思う。問題点については是非、共有いただきたい。

また、基本プラン VER.2 を 2021 年 3 月、事務局で作成し理事会承認を経た経緯がある。内容については、項目 1：競技会の活性化、項目 2：ジュニア世代の充実、項目 3：女性スポーツの推進、項目 4：スポーツ医・科学サポートの充実、項目 5：その他、となっている。

このプラン作成は、当協会が国体の隔年開催に決まった時に、通信簿で加点できず評価が低かった課題について、国体の毎年開催復帰を目指すために、評価が低かった分野を治癒・改善するためにプラン作成を行った経緯だ。3 年経過し、達成できたところ・できてなかったところの差が大きい。大儀的に言えば、VER.2 は普及・振興の部分が強いプランだ。ジュニア世代の充実を図る必要があると古川理事も主張されていたが、3 年前に、ジュニア世代の充実を図るためにタレント発掘をやったり、様々なイベントを実施したりした。現在、ENEOS からいただいた助成金事業も一般者を対象とした普及振興策である。

本日報告事項として上げたのは、基本プラン VER.2 は 2021 年 3 月理事会承認なので既に 3 年以上経過しているため、更新する必要がある。古川理事からの提案も含めて、総務委員会、競技委員会等でいわゆるプロジェクトチームを作り、基本プラン VER.3 を策定する必要があると考えている。

更新作業にあたり VER.2 の内容を知っておく必要があるので、3 年前に作成したプランを本日配布させていただいた。同プランは JSPO に提出した経緯があり、この時に普及振興策に入っていた 1 つが JCSA ルールである。しかし JCSA ルールは失敗したという意見が多く、現在は廃止されてしまった。VER.3 では JCSA ルールを検証しこれを廃止して今後こう展開する…というものにしたい。

今回新しく 6 月総会で選ばれた理事・監事の各位におかれては新任の方も多いので、このようなプランを過去策定したことを共有いただきたい。また、今後プロジェクトチームを作って基本プランを更新してほしい。今後何か忌憚（きたん）のない意見・提案があれば、遠慮せずに事務局に寄せていただきたい。

議長が確認し、報告事項が了承された。

8. 審議事項

(1) 審査担当理事・審査委員長の委嘱について

事務局より説明。

現在、審査委員長を中園功一副会長に就任いただいているが、今後は競技委員会同様、実務を行うフットワークが良い方へ委員長職をお願いし、担当理事を理事の中で置きたいと考え、次の通り委嘱しようと考えているので理事会の承認をお願いしたい。

◇審査担当理事：中園 功一（鹿児島）

◇審査委員長：中根 逸朗（愛知）

議長が議場に諮り、これを承認。委嘱手続きを進めることを確認した。

(2) 強化委員会メンバーの委嘱について

事務局より説明。

現在強化委員会は、委員長の清水理事1名のみであるが、この度、片岡勝哉氏（滋賀）、中国・四国・九州ブロック理事である長谷川雅彦氏（山口）を常任委員として追加したい旨報告があったので理事会の承認をお願いしたい。

議長が議場に諮り、これを承認。委嘱手続きを進めることを確認した。

(3) ハイパフォーマンス・アシスタント・ディレクターについて

増田総務委員長より説明。

2024パリ五輪に選手を派遣することができなかったという協会史上初の経験を経て、前強化委員会の総括を行ない解体的出直しを図ることになり、現在、清水強化委員長を中心に、中山ヘッドコーチの協力を得て組織を再編することでスタートしていた。その中で重要なポジションとなるのが、JOCの謝金対象役職であるハイパフォーマンスディレクター清水氏、ナショナルヘッドコーチ中山氏が就任しているが、もう一つ重要なポストとしてハイパフォーマンスアシスタントディレクターがある。これを協会在職30年以上、長い事務局長経験も長い大江氏を私から推薦・出向してもらいたいと考えている。これまでの強化委員会の反省点として、専属的な人間が居たこと、密室の特定者による決定が伊勢原で行われていたこと、助成金ありきの非効率な強化費用を使っていたこと、この3点を改善することで、次期ロス五輪には必ずや選手を派遣したい意向がある。

そのためには、持続可能な強化システム、組織体制の可視化と報告義務化、業務分担、責任と権限の明確化、コーチと選手間のルールの明確化、これらの作業を通して組織的に選手を育成することを、清水・中山両氏を中心にやっているが、そうした組織化やルール作りについて経験に長けている大江氏を加えることで加速・充実したものになることを期待している。

議長より補足説明。

総務委員長から説明いただいたが、是非ともロス五輪については我がクレイ射撃協会から必ず選手を出す、と先ほどJOC幹部との面談時にも申し上げて

きた。組織の充実を図らなければならず委員長 1 人に任せることは無理だ。オリンピック選手の輩出は全員で取り組まなければならず、競技団体の大きな使命の一つだ。

オリンピックは我々の最高目的だ。世界選手権等で出場権(QP)を獲得する。協会がしっかりした土台の基に選手を育成していかななくてはならない。その上でまずは組織の充実を図るため、ハイパフォーマンスアシスタントディレクターを設置する。今は透明性が担保されている。私は監事、理事、副会長を歴任したが、ハイパフォーマンスディレクター等強化の中で誰かが勝手に決めていた。ようやく私が会長職を務めるようになって全て明るみに出た。先程の総務委員長の説明通り、組織の充実を図っていくことが目的であるため、ハイパフォーマンスアシスタントディレクターの就任について原案を承認願いたい。

議長が議場に諮り、大江直之氏のハイパフォーマンスアシスタントディレクター就任が承認された。

(4) 「定款の施行についての細則」の改正について

事務局より説明。

顧問弁護士の指導をいただきながら、定款、定款の施行についての細則、諸規程の見直しを行ってきたが、あまりにも物量が多く、定款細則の修正箇所が 1 点漏れていた。

総務担当理事から総務委員会を復活させて現在に至っているところ、定款細則に明記しなければならない総務委員会の業務内容がまるまる欠落していることが判明し、今回、総務委員会の業務内容を追加修正した原案を配布させていただいた。その他、顧問弁護士の指摘に伴い、第 7 条第 2 項・第 3 項を追加修正させていただいた。

◇第 7 条第 2 項：追加

専門委員会は、前項の事業及び業務に関し、理事会の諮問に応じて答申を行い、又は諮問を待たずして意見を具申するほか、理事会の決定に従い、これらの事業及び業務を実施する。

◇第 7 条第 3 項：追加

専門委員会は、第一項の事業及び業務の実施に関しては予め本会事務局と密接な連絡を取り、事業の円滑な遂行を図らなければならない。

議長が議場に諮りこれを承認。定款の施行についての細則の改正が、原案通り承認された。

(5) 審査規程の改正について（報告事項含む）

事務局より説明。

先程、審査担当理事：中園功一氏、審査委員長：中根逸朗氏の承認をいただ

いたが、その他の審査委員会のメンバーとして、副委員長へ佐藤昌樹氏（宮城）、加藤久善氏（神奈川）を追加し、競技委員会と連携しながら実務を運用していきたい。

また、2024年度ブロック別審判員講習会については、4つの各ブロックから講習会開催申請が本部事務局へ届いている。これから下期に向けて他ブロックからの追加申請があると思われるが、去る8月23日、秋田県協会主管の東北ブロック審判員講習会が実施され、講義だけでなく現場実習も取り入れた。また、修了試験についても今までは、受けたら点数が悪くても補習して合格というスタイルが常だったが、今後はしっかり合格点基準を決めて、テストの点数が足りなかった人は追試を受けてもらう方式で実施していきたい。参考までに秋田では19名の受講参加があった。

続いて、先週成田射撃場で強化合宿が実施され、カリキュラム内に競技ルール、選手マナー、心構えの講義依頼が強化合宿から審査委員会にあり、副委員長2名が強化合宿の座学講師として参加した。マナーとしては、安全に関する規定や警告、競技ルールとしてはプロテストの注意点等を講義。最後に、考査試験を行って、答合せの時間に実例を挙げながら解説も行った。また、2日間あったので、強化選手が記録計測を行っているところへレフェリーとして射台に立ち、レフェリーとして気付いた点をコーチ陣にフィードバック、2日目には改善されていた旨の報告を受けている。

清水委員長から名古屋アジア大会にあたり、スーパーバイザーを揃えなければならないという説明があったが、本部公式大会で実践を積むことが難しい点もあるので、こういったナショナルチーム強化合宿、今後活動していくU25合宿などへ審査委員会・競技委員会からレフェリーを派遣して、実践の練習、現場でのレフェリー経験などを積んで、アジア大会に備えたいと考えている。

その他、去る8月8日、兵庫県立総合射撃場の公認検定を行った。検定委員として派遣したのは先ほど審査委員長へ就任承認された中根氏、その他多久和競技委員長、大内競技担当理事が同行した。トラップ射面において5番射台から6番射台に移動する通路が設けられていないなど、適宜指導を行い、後日塗装して通路を完成させるという条件を付けたと報告を受けている。射撃場のランク付けについては、駐車場、会議室、射面等の各項目を評価した結果「AA」基準であったので、「AA」射撃場として公認証を発行した。

また、国際大会へのレフェリー派遣が急務と審査委員会は考えていて、役員改選後に組織された審査委員会・競技委員会では、国際大会のレフェリー経験者が殆ど居ない状況だ。従来は柏木氏が主担当でこの領域を賄ってくれたが、今後の国際的な繋がりを形成するためにも、ISSF・ASCへのレフェリー派遣、海外NFから日本レフェリーの派遣を依頼されるような人材育成が必要だ。そのためには、実際に国際大会の経験を積む必要があるため、今後、費用負担が低い近隣のアジア地域の国際大会へ数名のレフェリーを派遣して実績を積む必要があるため、これらの取組みについて各位の了承をいただきたい。

続いて、審査規定の改正について、ライセンス取得を修正したい。国内のレ

フェリーライセンス取得者を増やしたいところ、審査規程第8条において、審判員ライセンスを取得しようとする者は、クレー射撃競技に5年間以上の経験が必要、Bクラス以上の実績が必要と明記されている。現状の規程では2級資格取得にも条件・制限がある。

現状、本部公式や地方公式に参加する選手は、安全面も含めて競技ルールを熟知して、ある程度の知識レベルが必要だ。地方協会にあっては、新入会員に対してルールを熟知するために、2級審判員ライセンスを取得するよう薦めても5年の経験が無いからダメ、Bクラスじゃないとダメという現行規程があるため障害になっている。

審査委員会は新入会員も積極的にライセンスを取得いただきたいと考えているため、5年以上の競技経験やBクラス以上の実績を廃止し、2級審判員に限っては、本部公式や地方公式へ1回以上の出場経験があれば受講可と改正したい。審査規程の改正について理事会の承認をお願いしたい。

議長が議場に諮りこれを承認。審査規程の改正原案が承認された。

議長より補足説明。

当協会には現在、罰則規定が無い。現在、総務委員長に罰則規程の作成を依頼している。今後理事会へ原案が提出されるので含んでおいていただきたい。

(6) 賃金規程の改正について

増田総務委員長より説明。

理事会冒頭で紹介があった職員：上久保氏の年齢は26歳。今後の事務局を考えれば若い方を採用していく必要があるところ、若い方を雇うということはそれを迎える賃金規程をしっかりと明文化しておかないと、若い方に選択すらされないのが今の世の中だ。

従来の賃金規程は平成16年に設けられたが、金額は会長の一言で決まるようになっているため、給与受給者である事務局員たちは当時、大変苦労した。先ほど大内理事から聞いた話だが、大内理事が伊勢原射撃場に行ったら某元役員から「おまえはどっち派だ？」と言われたそう。今後の協会はこういう考えを根本から無くすべきだ。どっち派ではなく、皆、協会のために頑張っている。このような考えを不老会長からいただき、まず最初に常勤職員の賃金規程から見直してくれないかと指示を受けた。

各位へ配布した規程原案は俸給表がある。俸給表は細かい数字の羅列になっているが、横軸は等級、縦軸が職位である。職員が何年勤めたらどのくらい上がる、仕事で成果を出したらどのくらい上がるか、数値化している。

また、評価は会長ではなく評価部会が行い、部会が検討することになっており、従来のように会長が好きに決めることにはなっていない。新しく入ってくる職員が、絶えず上司の顔色を伺いながら仕事をするようではダメだ。不老会長から常々伺っていたことは、事務局は中立でなければならない。どっち派でもない、必ず協会に対して正当な判断ができる事務局員に育ててほしいと願っている。

この俸給表に基づき、事務局員は自分が頑張れば頑張るほど俸給は上がって

いき、頑張らない人はそれなりにということを可視化できるようになっている。賞与関係も全て明記されているので、御目通しいただき、理事会の承認をお願いしたい。

議長より議場に諮りこれを承認。

(7) その他：褒賞金について

清水強化委員長より質問。

来月9月、アジアショットガンカップ大会（KAZ）へ選手団を派遣予定であるが、同大会は褒賞金対象外で間違いないか。

事務局より説明。

国際競技会における褒賞金規程について、オリンピックでメダルを獲得したら〇〇万円、世界選手権でメダルを獲得したら〇〇万円という規程がある。これは競技規程の内規であり、原資は奨励金だ。

直近では東京五輪終了後改正した経緯がある。トラップミックスで大山選手と中山選手が5位入賞となったが、当時の規程ではミックス種目が対象として明記されていなかったため、2021年度第3回理事会（2021年10月27日）で改正された。

国際大会褒賞金は、競技委員会の内規ではあるが強化委員会の意見も必要、金額的には総務委員会の意見も必要なところ、この度のアジアショットガンカップ大会は現行規程の対象になっていないため、メダルを獲得しても褒賞金に該当しない。来年度以降は世界選手権等々が開催されることを鑑み、今年度中に改定を検討する必要があるとは考えている。本日の理事会では問題提起に留め、競技委員会・総務委員会・強化委員会で協議して、必要であれば理事会へ改正案を上程したい。

議長が議場に確認しこれを了承。

(7) その他：クレーセットについて

池内理事より意見。

地方協会役員から要望を受けたが、トラップのクレーセットについて新ルールブックでは、トラップセット表で200個撃ちの場合の2日目裏セットが掲載されていない。大阪の場合は、1日目・2日目では全くセットを替えて実施している。

地方協会関係者が本部事務局へ確認したところ、新ルールブックには掲載されていないが裏セットが駄目ということは競技委員会も理事会も決定していないので、現状、裏セットは認められているという説明だった。

ある県協会では200個撃ちの2日目は裏セットを使った、大阪は1日目・2日目とルール通り15本全て替えた。ダブルスタンダードになっている現状があるので、今後の地方公式大会200個撃ちの際のトラップクレーセットについて統一見解を出していただきたい。

事務局より説明。

新ルールブックではいわゆる裏セット記載を外したが、地方公式大会を主管する地方協会関係者の大会運営について時間的制約もあるため、裏セットを用いても構わない旨を地方協会へ説明してきた経緯がある。文書通達すべきということであれば対応したい。

大内競技担当理事より説明。

裏セットは日本国内だけのもので、世界大会には無いものを日本で実施することは良くないと考えていた。本年度は兎も角、来年度以降は裏セットは考えずルールブック記載の1~9番セットで実施すべきと思う。

中園審査担当理事より意見。

大内理事が言われた通り、裏セットは世界では実施していないが、愛知県総合射撃場を例にとれば、3射面を全部フルセット替えとなると担当する競技役員へ物凄い負担を強いることになる。1日目の競技が終わった後セット替えを45本行うことになるからとても時間が掛かる。それだけのスタッフが居ない場合は裏セットで実施しても良いのではないか、参加選手は同じセットを射撃するため不公平はない、ということで指示していた。1日目の競技終了後に全てセットを替えるとなると現実的ではない。

今後、ルール通り実施するならスタッフを増やさなければ対応できない。現在、本部公式大会では競技役員は皆、朝5時にはホテルを出て射撃場へ向かう。これ以上の負担を競技役員に科す訳にはいかない。

議長より説明。

現状を鑑み、ローカルルールを採用して実施していこうということだ。

大内競技担当理事より意見。

現場の意見を尊重し、競技委員会で話し合い、皆が納得できる形で大会運営にあたりたい。

議長より説明。

各地方協会へ文書通達が必要だ。

議長が議場に諮り、これを了承。

(9) その他：

古川理事より意見。

提案1件、要望1件ある。1つ目の提案だが、理事会の際に配布される資料について、出席者へアンケートを事前に取り、PDF配信を希望する方にはPDF、従来のペーパー式を希望する方はペーパー、ペーパーレスが経費節減にも繋がるので希望者のみで良いのでPDF事前送付を提案したい。本日、基本プランVER.2を拝見して、とても参考になったが七十数ページあり、これを準備するのも相当な時間を要するであろう。事務局の負担軽減にも繋がる。

本日の理事会資料は個別に事務局へお願いして事前にPDFで資料を送っていただき、自分のiPadへ入れて今日理事会へ出席している。私はiPadで十分だ。もしiPadを持っていない方が居れば、例えば理事就任期間中は貸与して退任時に返却いただくという方法もある。会議連絡もiPadで行うこともできる。私も古い世代の人間だが、若い方々にいろいろと教えてもらいながら職場で使っている。使い始めたらとても便利だ。理事会資料のペーパーレス化を提案したい。

要望としては、議事録のホームページアップをもう少し早くしてもらいたい。忘れた頃に議事録がアップされている感じだ。署名人等の手続きに時間を要するなら、ダイジェスト版をホームページに掲載してくれれば一般会員方々が、我々は理事会でこんな話をしているということがリアルタイムで伝わる。理事会が変わったというアピールもでき、スピード感が大切だ。可能な限りで良いので、議事録を早めにホームページへ掲載いただきたい。

議長より説明。

理事会資料のペーパーレスは経費削減と事務局の負担軽減に繋がるので、私と事務局で前向きに検討していきたい。

議事録作成については、業者のテープ起こし原稿を見ながら作成するので一定の時間を要する。

事務局より補足説明。

テープ起こし業者から原稿が事務局に届くのが早くて1週間から10日。それから議事録作成に取り掛かり、議長と陪席監事へ郵送回覧して署名捺印をいただいている。

議長より説明。

最初に議長を務めた私へ議事録が送られてきて、署名後監事へ回送する。監事が2名陪席していれば、その後次の監事へ郵送となり、どんなに早くても4週間ぐらい掛かる。現状止むを得ない。

事務局より補足説明。

議事録は法人として未来永劫残るものなので、間違いがあってはならないため、作成後複数回チェックを入れる。人の記憶は曖昧なので、最終的には必ずテープ録と照合する。

古川理事から提案のあったダイジェスト版を先に出すことは、簡易なものなら対応できそう。ブロック理事として傘下県協会へ報告する責務があると思われるので、事務局・総務委員長で検討したい。

増田総務委員長より説明。

古川理事の提案や要望はごもっともだ。これから総務委員会を立ち上げる必要があり、古川理事にも是非、総務委員会メンバーになっていただき協力をお願いしたい。理事会資料の問題、議事録の問題。実のある改善を図っていききたいので協力願いたい。


議長が議場に諮りこれを了承。

不老議長より、以上で報告事項、審議事項の全てが終了したことを告げ、出席各位へ慎重審議に対して謝辞があり、閉会を宣した。
次回理事会は、10月28日に行うことを申合せた。

15時30分 閉会

2024年8月27日

公益社団法人 日本クレール射撃協会

議長 不老 安正 
(会長 不老 安正 自筆署名)

議事録署名人 萩野谷 豊光 
(監事 萩野谷 豊光 自筆署名)

議事録署名人 坂本 昭一 
(監事 坂本 昭一 自筆署名)